

世界の国々へ母子手帳を！ ～第11回 母子手帳国際会議～



国際母子手帳委員会事務局長、ベトナムの子ども達を支援する会事務局長

板東あけみ

障がい児を護るケアシステム構築の技術協力の中で国際的な母子健康手帳活動を始め、ベトナムやカメルーンなどの母子手帳開発や改訂に携わっている。



創価大学看護学部

小松法子

青年海外協力隊でタンザニアの母子保健クリニックで活動した事をきっかけに、中村安秀教授の下で学び、母子手帳国際会議に事務局として関わっている。

母子手帳とは何か？

日本では母子健康手帳（以下、母子手帳）は、成人で知らない人はいくらい「当たり前にあるもの」となっています。第2次世界大戦中の1942年（昭和17年）に妊産婦手帳が始まり、物資の優先配給と定期的な妊婦検診が奨励されました。戦後の1948年（昭和23年）には妊産婦手帳に子どもの記録の部分を合わせて世界で初めての母子手帳ができました。すでに妊産婦手帳が普及していたので、母子手帳もそのまま全国一斉に普及しました。1966年には母子保健法ができて、翌1967年から母子健康手帳という名称になり、都道府県が交付することになりました。1991年には母子保健法の改正により市町村が交付することになり、現在に続いています。細かい改訂はその都度行われていますが、厚生労働

省が監督する全国共通のページの省令様式全体の見直しの改訂は、10年に1回行われています。今回は2021年までに検討されて2022年から改訂版が使われる予定になっています。この日本生まれの母子手帳を世界に発信し、関心のある国々の取り組みの経験共有を行おうと始まったのが、当初の母子手帳国際シンポジウムでした。

母子手帳国際会議の経緯

母子手帳国際会議は、1998年に東京で母子手帳国際シンポジウムとして開催されたのが始まりで、第1回の会議には5カ国から150名が参加しました。その後、だいたい2年に1回のペースで会議が開催されて、第2回・3回はインドネシア、第4回はタイ、第5回はベトナム、第6回は東京、第7回はバングラデシュと第7回まで日本とア

ジアの国々で開催されてきました。第8回にはついにアフリカ大陸に渡り、第8回がケニア、第9回がカメルーンでの開催となりました。第8回のケニアでの会議には20カ国を超える国・地域から参加者が集い、アフリカ大陸からもたくさんの方が参加されました。2016年に行われた第10回の母子手帳国際会議は、再び東京で行われ、3日間の会議には38カ国・地域から約400名の参加がありました。アジア・アフリカだけでなく、中東やヨーロッパ、アメリカなど世界各地から参加者が集い、国際機関からの参加もありました。母子手帳国際会議を重ねるごとに参加者も増えてきて、母子手帳を活用している国々の広がりと共に、参加された参加者同士の繋がりができてきたことも、母子手帳国際会議の大きな役割になっていると思います。



②秋篠宮妃殿下に開会式でご挨拶をいただきました。手に持っておられるのは、長女眞子様の母子手帳。

③世界医師会横倉義武前会長より、開会式でご挨拶をいただきました。

④ホテルで開催された本会議場の様子



①ホテルの前には、派手なピンクの母子手帳国際会議の案内



バンコク母子手帳国際会議の概要

第11回母子手帳国際会議は、「持続可能な開発目標（SDGs）をめざす人生最初の1000日間の奇跡：家庭にある道具としての母子手帳」のテーマのもと、2018年12月13・14日の2日間、タイ王国バンコク市内のモンティエン・ホテルで行われました（写真1）。今回の国際会議にはアジア・中東・アフリカ・ヨーロッパなど29カ国・地域から、447名の参加があり、世界各地で母子手帳への関心の高さや活用が広がっていることを改めて感じました。主催はタイ保健省（Ministry of Public Health）と国際母子手帳委員会（International Committee on MCH Handbook）。共催として国際協力機構（JICA）、また、WHOタイ事務所、ユニセフタイ事務所、日本医師会、恩賜財団母子愛育会、日本WHO協会、日本国際保健医療学会、甲南女子大学、NPO法人HANDS、（株）サラヤ、（株）プロアシストなどから後援をしていただきました。この場をお借りして、厚く御礼申し上げます。

会議1日目は、華やかなタイの伝統舞踊から始まり、開会式では、タイ保健省副大臣、秋篠宮妃殿下（写真2）、横倉義武世界医師会前会長（写真3）、戸田隆夫 JICA 上級審議役からご挨拶があり、タイ保健省副大臣、国際母子手帳委員会代表の中村安秀教授の基調講演がありました（写真4）。午前中は、全体で「世界の母子手帳：過去・現在・未来」のテ

第11回母子手帳国際会議・日程表

2018年12月13日

- 開会式 タイ保健省副大臣、秋篠宮妃殿下、横倉義武日本医師会会長・世界医師会前会長、戸田隆夫 JICA 上級審議役
- 基調講演 タイ保健省副大臣、国際母子手帳委員会代表
- 全体会議 「The MCH Handbook around the world ; past, present and future (世界の母子手帳：過去・現在・未来)」
- 分科会 「No one left behind (だれも取り残さない母子手帳)」
- 「Policy and Management for MCH handbook utilization (母子手帳活用の政策管理)」
- 「Knowledge Sharing of MCH Handbook around the world (世界における母子手帳の情報共有)」
- 「Group meeting for Bangkok Declaration (バンコク宣言の検討)」

懇親会

2018年12月14日

- 英語圏会議 「Universal Health Coverage for Children – Building brighter future in which every child thrive (子どもたちのためのユニバーサル・ヘルス・カバレッジ：すべての子どもたちが成育する輝く未来の創造)」
- 全体会議 パネルディスカッション：「WHOガイドライン」
- パネルディスカッション：「Future plan for MCH handbook in the era of SDGs (持続可能な開発目標の時代における母子手帳の未来像)」
- 「Bangkok Declaration (バンコク宣言)」の採択
- 閉会式

ーマの下、インドネシア、ケニア、カナダ、オランダ、日本からの発表があり、各地で活用され、発展してきた母子手帳について、これまでの経過と共にこれからの取り組みについても議論されました（写真5）。午後は、4つの分科会に分かれてそれぞれのテーマの下、活発な質疑応答や意見交換がなされました。「だれも取り残さない母子手帳」のセッションでは、日本の低出生体重の赤ちゃんのご家族が使える母子手帳と共に使うサブブックの開発や中国のハイリスク妊娠のお母さん達への取り組みなどが紹介され、電子母子手帳の開発や活用について、日本やオランダ、タイでの取り組みが紹介されました。また、「世界における母子

手帳の情報共有」のセッションでは、11カ国の参加者から発表があり、アジア・アフリカ・中東での母子手帳の活用と発展についてお互いの経験を共有し、更なる発展に向けて学びあうとても活発な質疑応答が行われました。特に、これから母子手帳を活用して行きたいと考えている国から参加された方は、熱心に質問され、セッション終了後も発表者や参加者の方々と話している様子が見られました（写真6）。

会議2日目は午前中を使って会議が行われ、前半は「子どもたちのためのユニバーサル・ヘルス・カバレッジ（UHC）」をテーマにパネルディスカッションを行い、後半には WHO が発表

した妊産婦・新生児・子どもたちの家庭用記録としての母子手帳についての発表がありました。2つのセッションを通して、母子手帳が家庭における健康記録として、妊娠から出産、新生児から乳幼児期に至るまで家庭で保管できる医療記録として注目され、UHCの取り組みの中で重要な役割を担っていることを改めて確認しました。最後に、これからの国際母子手帳委員会の取り組みについて発表され、今回の会議をまとめたバンコク宣言の発表があって会議が閉幕しました(表)。

フィールドトリップ

会議の前日(12月12日)には、タイ保健省の方々がアレンジをしてくださったフィールドトリップがあり、希望者は半日コース・1日コースで4つのグループに分かれてタイの病院を視察しました。視察は首都圏保健福祉センター(Metropolitan health and wellness institute)、Siripatクリニック、Pratumthani病院、Charoenkrung病院

の病院から1つか2つを訪問し、それぞれの病院やクリニックで行われている妊産婦ケアや乳幼児健診、乳房クリニック等を見学して、タイの病院で実際に母子手帳がどのように使われているのか学ぶことができました。私が視察したPratumthani病院では、産後のケア等でタイの伝統的なハーバルボールを使ったマッサージをすると聞き、医療が発展し、先進的な機械や施設が整っている病院でも伝統を大切にしながら、産後のお母さん達の健康増進を行っていることにとても感動しました(写真7)。また、タイの母子手帳は、「ピンクブック」と呼ばれ、健診等で集められて重ねられていた母子手帳は、病院のスタッフもお母さん達も愛着を持って使っている様子が見うけられました。2カ所目に訪れたCharoenkrung Hospitalは、高層ビルのような病院でしたが、中に入ると吹き抜けになっていて、とても開放的な空間のある病院でした。私達が見学に行ったとき、ちょうど産科病棟では産後のお母さん達が沐浴の方法を習っているところ

で、私達も一緒に見学させてもらいました。また、新生児集中治療室(NICU)では、カップでミルクを飲んでいる赤ちゃんもおり、一緒にフィールドトリップに参加していた助産師さん達からカップによる授乳について説明をしてもらいながら見学させてもらいました。どちらの病院も明るい部屋でかわいい装飾がされていたり、遊べる空間があったりしていて、病院に来る子ども達や家族が過ごしやすい雰囲気のある病院でした。

今後の展望

今回の会議の成果や思いを自国に持ち帰った参加者は、帰国後に色々と思案を重ねています。インドネシア保健省は、低出生体重の赤ちゃんにご家族のための母子手帳「しずおかリトルベビーハンドブック」の発表を受けて、2019年1月に静岡へ視察に来られました。また、3月には台湾保健省が来日して、日本の母子保健の経験を学ばれることになっています。ルワンダからの参加者は、自国にも母子手帳をと切望されており、その思いを組みとった視察団が4月にルワンダへ訪問することになっています。このような国を超えた協力によって、母子手帳の使用の経験がさらに世界に広がっていき、今回のバンコク宣言の具体化につながることを確信しています。今回の会議を終えて、次回、第12回母子手帳国際会議は2020年7月8日-10日にオランダのアムステルダムで開催されることがすでに決まっており、初めてヨーロッパでの開催となります。今後、詳細な内容やスケジュールなどは、第12回母子手帳国際会議ホームページ(<http://www.conference.mchhandbook.com/>)から見るができます。また、今回の母子手帳国際会

51日目のセッションで発表するケニアのミリアム・ウェレ教授



議の様子や発表原稿などは、国際母子手帳委員会のホームページ (<http://www.mchhandbook.com/mchhandbooks/>) に掲載されており、ダウンロードもできます。日本を含む世界各国での母子手帳のますますの取り組みにより、日本生まれの母子手帳が、さらに各国の母子手帳となって世界の家族を護っていくことを祈念しています。

⑥国際協力機構(JICA)のブースを訪問する参加者



⑦フィールド訪問で訪れた Pratumthani病院



母子手帳国際会議のあゆみ

	開催年	開催国	主催者	参加国	参加人数	その他
第1回	1998	日本(東京)	東京大学	5	150	厚生労働省の研究班の活動の一環として実施
第2回	2001	インドネシア(マナド)		10	130	トヨタ財団研究助成「利用者の視点から見た母子健康手帳の国際比較：リプロダクティブヘルスの実践的教材としての可能性の検証」による全面的な支援
第3回	2003	インドネシア(ポゴール)		6		JICA「母と子の健康手帳プロジェクト」(2003年9月終了)の最終イベント。
第4回	2004	タイ(バンコク)	マヒドン大学、大阪大学	11	94	マヒドン大学サラヤキャンパス(AIHD:アセアン健康開発研究所)で開催。AIHDのシリクル所長が大会長。
第5回	2006	ベトナム(ベンチエ省)	ベンチエ省人民委員会、大阪大学	11	153	トヨタ財団の支援を受け、ベトナム保健省や多くの省からの参加者を招聘した。ベトナムでの母子手帳の全国展開に向けての契機となった。
第6回	2008	日本(東京)	大阪大学 NPO法人 HANDS	16	320	ユニセフやUNFPAの協力を得て開催された。海外からの参加者は、茨城県常陸大宮市で母子手帳の活用状況の視察を行った。
第7回	2010	バングラデシュ(ダッカ)	ダッカ大学 大阪大学	9	230	バングラデシュ保健家族福祉省、家族計画協会、国際NPOのBRACなどの協力。
第8回	2012	ケニア(ナイロビ)	ケニア公衆衛生省、国際母子手帳委員会	25	400	アフリカ大陸で最初の母子手帳国際会議。ケニア側の準備委員会にはJICA事務所も加わった。内閣府の野口英世アフリカ賞イベントも併催された。
第9回	2015	カメルーン(ヤウンデ)	カメルーン保健省、国際母子手帳委員会	19	250	JICAの多大な協力を得て、アフリカ各国から青年海外協力隊員とカウンターパートが参加した。開会式には、カメルーンの8名の大臣・副大臣が列席した。
第10回	2016	日本(東京)	国際母子手帳委員会、大阪大学	38	約400	共催：JICA、ユニセフ、UNFPA、NPO法人HANDS テーマ：障がい者、難民・移民、少数民族、貧困者などを包摂し、「だれひとり取り残さない(Leave No One Behind)」母子保健サービスを提供する母子手帳
第11回	2018	タイ(バンコク)	タイ保健省、国際母子手帳委員会	29	447	メインテーマ：「持続可能な開発目標(SDGs)をめざす人生最初の1000日間の奇跡：家庭にある道具としての母子手帳」。タイ各地からの保健医療専門職、アジア、アフリカ、欧州など世界各国から参加